

人間文化研究機構 第13回公開講演会・シンポジウム



生物多様性と文化多様性の接点

2010.7.16 時間無料

13時30分~17時 / 13時開場 有楽町朝日ホール | 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11階

お申込み先着400名

ヒトは、赤道直下から北極圏、さらには乾燥地帯まで分布域を広げた特異な動物である。地球上の多岐に富む気候風土のなかでヒトが生き延びてきたのは、多様な生物を食料として利用し、一部を管理下において栽培・飼育したことによるものである。人間の文化多様性は、地域の生物多様性を使いこなし、品種選抜や育種で新たに生物多様性を生んでいく過程で育まれてきた。地球環境問題のなかで、生物多様性や文化多様性の喪失の危機は実感しにくい。このシンポジウムでは、生物多様性と文化多様性の接点として、わたしたちに最も身近な「食」を取り上げて、人間文化研究機構として生物多様性年にふさわしいものとしたい。

基調講演

食文化の多様性

石毛直道 ● 国立民族学博物館元館長・同館名誉教授

講演

考古学から探る日本の環境と食文化の多様性

松井 章 ● 奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター長

暮らしの中の多様性

佐藤洋一郎 ● 総合地球環境学研究所副所長・教授

日本列島の「食」の多様性と持続的な資源利用

湯本貴和 ● 総合地球環境学研究所教授

パネルディスカッション

[パネリスト] 松井 章、佐藤洋一郎、湯本貴和

【コーディネーター】 秋道智彌 ● 総合地球環境学研究所副所長・教授

主催/**人間文化研究機構、総合地球環境学研究所** 後援/文部科学省、朝日新聞社

生物多様性と文化多様性の接点

PROGRAM

■ 開会の辞

金田章裕 (きんだ・あきひろ)/人間文化研究機構長

■ 基調講演



食文化の多様性

石毛直道 (いしげ・なおみち)

国立民族学博物館元館長・同館名誉教授

京都大学大学院文学研究科修士課程中退。東京農業大学(農学博士)。甲南 大学助教授、国立民族学博物館教授・館長などを経て、現職。著書に『石毛直 道 食の文化を語る』など

■ 講 濱





考古学から探る日本の環境と食文化の多様性

松井 章 (まつい・あきら)

奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター長

東北大学文学研究科博士課程中退。京都大学大学院人間・環境学研究科客員教授。人間の動物利用の歴史を研究している。著書に「環境考古学への招待」など

2



暮らしの中の多様性

佐藤洋一郎(さとう・よういちろう)

総合地球環境学研究所副所長・教授

京都大学大学院農学研究科修士課程修了(農学博士)。専門は植物遺伝学。 著書に「コシヒカリより美味い米ーお米と生物多様性」など

3



日本列島の「食」の多様性と持続的な資源利用

湯本貴和(ゆもと・たかかず)

総合地球環境学研究所教授

京都大学大学院理学研究科博士課程後期修了(理学博士)。京都大学生態学研究センター助教授などを経て現職。編著に『食卓から地球環境がみえる』など

パネルディスカッション

【パネリスト】

松井 章、佐藤洋一郎、湯本貴和

【コーディネーター】



秋道智彌(あきみち・ともや)

| 総合地球環境学研究所副所長・研究推進戦略センター長・教授 | 東京大学大学院博士課程修了(理学博士)。専門は生態人類学。著書に『クジ | ラは誰のものか』、『コモンズの人類学』など

■ 閉会の辞

立本成文 (たちもと・なりふみ)/総合地球環境学研究所長

【交诵案内】

有楽町朝日ホール (東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11階)

JR(山手線・京浜東北線)有楽町駅中央口または銀座口、東京メトロ(丸ノ内線・銀座線・日比谷線)銀座駅 C4 出口、東京メトロ(有楽町線)有楽町駅 D8、D9 出口 — いずれも徒歩 2 分。

第13回公開講演会・シンポジウム 参加申込書

セミナーに参加ご希望の方は、「第13回公開講演会・シンポジウム参加希望」と明記の上、①郵便番号、②住所、③氏名(ふりがな)、④電話番号をご記入の上、ハガキ、FAX、e-mailで下記にお申込みください。定員になり次第、締め切ります。

FAXでお申込みの方は、右に必要事項を記入して、そのまま送信してください。



住 所	т –				
フリガナ 氏 名		電話番号	()	_
e-mail					

宛先 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4 総合地球環境学研究所 総務課企画室

FAX

(075)707 - 2106

e-mail

sympo@chikyu.ac.ip